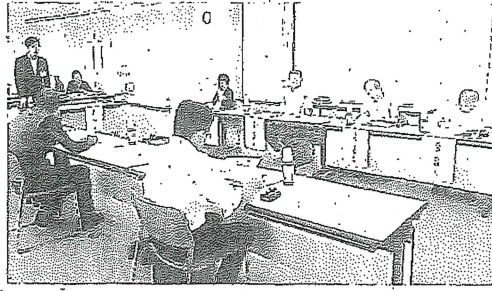


上下水道の料金改定諮問

野洲市長、運営委に老朽化、経営に厳しさ

野洲市の上下水道事業運営委員会が25日、同市西河



現在の上下水道事業の状況などの説明が行われた運営委員会の初会合(25日、野洲市西河原・市中主防災コミュニティセンター)

原の市中主防災コミュニティセンターで開かれた。水道関連設備の老朽化が進み、経営状況が厳しさを増しており、櫻本直樹市長が今後5年間の上下水道の料金改定について諮問した。

野洲市の水道料金は、2004年の旧野洲、中主両町の合併後、06年に値下げして統一料金に改定された。17年に14%の値上げ後は据え置かれ、現在は標準

家庭で月2541円となっている。下水道料金は、06年に10%の値上げ後は変わらず現在月2920円。

この日は、自治連合会や商工会、工業会の代表者や

学識経験者の委員7人が出席。会議の冒頭、櫻本市長は「安定した良質な水道水の供給や災害に強い上下水道の整備とともに、運営合理化に努めながら、市民が健康で豊かな生活を送れるよう取り組んでいきたい」と述べた。

続いて、担当者が現在の上下水道の設備や経営状況を説明。水道料金は県内で5番目に安い一方、人口減少や節水機器の普及、修繕費用や物価高による経費の増加などで、昨年度の水道事業は2700万円の赤字だったことを説明した。

また、今後10年間で水道管の入れ替えや水源地などの施設更新で約60億円が必要となり、本年度以降、毎年度約4700万円〜3億5500万円の赤字が発生

する見通しを示した。

同委員会は、12月までにさらに2回会議を開催し、答申案をまとめる予定。

(石田真由美)

野洲市 水道料金値上げ諮問

27年度以降改定 運営委員会で

野洲市は25日、水道料金の値上げが必要として、有識者7人による市上下水道事業運営委員会を開き、2027年度から5年間の料金改定を諮問した。年内に改定率の案を含む答申を予定している。

市上下水道事業所によると、特に上水道で、老朽化した水道管の更新などで収支悪化が著しく、恒常的な赤字化が避けられない見通

し。24年度の市水道事業会計決算では、収益的収支が前年に比べ5600万円余悪化して、2700万円余の赤字に転落する見込み。市は06年度に下水道料金を10%、17年度に水道料金を14%値上げ。21年度の委員会答申で、26年度までの

料金を据え置いた。今後10年間で計画する設備更新費用は、現段階で60億円余を見込む。市は現行料金のまま実施した場合、25年度以降も収支悪化が進み、36年度には純損益が3億5千万円余の赤字になると試算する。

委員会で桜本直樹市長は「市民にも実態を知って一緒に考えてもらって環境をつくりたい」と話した。

(松崎晃子)